5 月報(2023 年)　萌　カトリック福山教会

福山教会活動テーマ：
「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808　福山市昭和町 7―26
☎【084】923-0614　FAX【084】923-0615
e-mail　：fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【聖母月に当たって】　　**キム・キファン・ミカエル神父**

福山教会の皆さま、はじめまして、この４月から主任司祭となったキム・キファン・ミカエルです。ミカエルと呼んでください。初めての記事としてはちょっと硬くなりますが、5 月の聖母月について皆さんにぜひ知っていただきたいことがありまして、「カトリック教会の教え」、「教会の祈り」の本と、日本カトリック中央協議会のホームページから抜粋してまとめました。情報提供の記事になってしまいますが、目を通して頂ければ幸いです。わたし個人のことなどはまたのチャンスにお話ししますので、もう少しお待ちください。

聖母マリアについてのカトリック教会の教え

Ⅰ　礼拝(信仰)と崇敬(信心)の違いとは

–「礼拝」あらゆる被造物に対する神の絶対的超越性を謙虚に、無条件に認めること。
–「崇敬」模範になる全ての聖人、聖女を尊敬し、取り次ぎを求めること。
–　マリアは、私たちと同じ被造物で、礼拝の対象は神だけで、ただ、主の母として、マリアを特別な崇敬する。

Ⅱ　聖母マリアについての四つの教義宣言(Dogma)

–　カトリック教会はマリアについての以下の四つの教義宣言を認めている。それはイエスが真の神、真の人だという事実に基づいている。

1.神の母マリア

–　マリアが神の母と呼ばれているのは全面的にイエスの神性による。しかし、それらのことが神の勝手な決まりではなく、「わたしは主のはしため、おことばどおりになりますように。」と答えたマリアのように神の従順に従った人間の品位を示しているのである。

２.マリアの無原罪のお宿り

－　マリアは神の特別なお恵みによって最初からあらゆる罪から守られていた。それはマリアが「恵みに満ちた方」であることを再び確認する表現であり、我々人間の救いは全面的に神のお恵みに基づき、人間の罪と所為は神の救いのみわざに決して影響を与えられないことを表す。

３.マリアの処女性

－　「処女性」が示している最も重要な意味は一人の人間が自分自身全てのことを最初から最後までひたすら神だけに捧げたことである。そういうことでマリアの「処女性」は神に全て捧げられた純潔な人間の神秘を現す。

４.マリアの被昇天

－　教会はイエスの昇天を能動的(Asencio:昇天)に、マリアの昇天は受動的(Assumptio:被昇天)に表している。そういうことでマリアが決定的な救いにあずかり、信じる全ての人たちの「救いへの希望」がマリアを通して具体的に示されたことである。

Ⅲ 聖母マリアについての様々な祝日

１.聖母月

－　中世のキリスト者は様々な美しい花が咲く 5 月にバラで庭を飾って聖母に愛を表わす「お祭り」を行なっていた。（個人のレベル）

カトリック教会が 5 月を聖母月にした慣習が生まれたのは 13 世紀だ。最初に 5 月を聖母に奉献して祭りの月にしたのは、スペイン王国だった。王は、直接詩と歌を作って、5 月の祭りの日に、聖母に奉献した。（様々な地域のレベル）

16 世紀にイタリアのローマでは、オラトリオ会を設立した聖フィリッポ・ネリ神父が仲間の司祭や若者と一緒に 5 月一ヶ月間、聖母に花を奉納し賛歌を歌って善行によってマリアを敬う信心イベントを始めた。この頃、イタリアの様々な修道院では、聖母の連願の祈りを 5 月の間に祈り、この祈りが流行のように広がった。また、1700 年にはイエズス会の会員によって聖母月が大衆信心に発展し、17 世紀末にはヨーロッパ全体の教会で、5 月の間に聖母連願の祈りを捧げ、聖母にバラを捧げる習慣が定着した。（修道会のレベル、全大陸のレベル）

19 世紀の半ばに入ってヨーロッパ全体とアフリカにまで聖母月が広がった。カトリック教会が典礼暦の中に 5 月を聖母月として公式確定したのは 1921 年である。その年教皇ベネディクト 15 世（在位 1914～1922）は、聖母マリアを「すべての恵みの仲介者」であると宣言して、5 月を聖母月として公式承認した。（全教会のレベル）

ちなみに、レオ十三教皇（ 在位 １８７８～１９０３）は 10 月を「ロザリオの月」と定めた。

２.聖マリアの五つの祝日

①１月１日　神の母聖マリア

－　聖降誕の祭日の週の第一の祝日を神の母聖マリアの祝日にする。

②３月２５日　神のお告げ

－　１２月２５日から逆算して１０ヶ月前を大天使ガブリエルのお告げの祝日にする。

③８月１５日　聖母の被昇天

－　なぜ８月１５日が聖母の被昇天の日になっているのかは様々な議論がある。

④９月８日　聖マリアの誕生

－　イエルサレムの聖マリアの誕生の記念大聖堂の奉献日

⑤１２月８日　無原罪の聖マリア

－　９月８日から 逆算して１０ヶ月前を聖マリアが聖アンナの体内に宿った日にする。

Ⅳ 日本カトリック教会の聖母マリア

日本に初めてキリスト教を伝えたのは、イエズス会の宣教師「フランシスコ・ザビエル」です。1549 年 8 月 15 日に鹿児島の海岸に上陸しました。日本に着いた日が、ちょうど聖母マリアの被昇天の祭日に当たっていたこともあって、ザビエルは、日本を聖母マリアに捧げました。

他人が、ひとの国を誰かに勝手に捧げるとはけしからんと怒る向きもあるかもしれませんが、当人は、そんなつもりは、まったくありませんでした。マリア様の保護のもとに置けば、日本の国民は幸せになれると思ったからです。

ザビエルが、日本を聖母マリアに捧げたせいかどうか分かりませんが、日本の歴史的な出来事と、聖母マリアの祝日が重なっている事実は不思議です。

日本が真珠湾攻撃と機をいつにして米英に宣戦布告し、太平洋戦争が始まったのは、1941 年 12 月 8 日。カトリック教会では、12 月 8 日は、聖母マリアが、その母聖アンナの胎内に宿ったことを記念する「無原罪の聖マリアの祝日」で、盛大に祝われます。カトリック国では学校や会社・商店は休みとなります。

太平洋戦争が終わったのは、1945 年 8 月 15 日。この日は、前述のとおり、「聖母マリアの被昇天の祭日」で、これまたカトリック国では、国民の祭日として仕事は休み。

そしてサンフランシスコ講和条約が、サンフランシスコで調印されたのは、1951 年 9 月 8 日。この日は、「聖母マリア」の誕生日に当たります。

さらに日本で建国記念を祝う 2 月 11 日は、「ルルドの聖母の祝日」となっています。

これはたんなる偶然かもしれません。しかし、こんなにもたまたまが重なるのでしょうか。ちなみに、ヴァチカン市国の建国記念日でもある。1929 年 2 月 11 日に、イタリアのムッソリーニと、ローマ教皇庁代表のガスパリ枢機卿の間で締結されたラテラノ条約によって、ヴァチカンは、国家主権が認められました。その調印式に使われたテーブルは、桜材でできた日本製だったといいます。

－３月１７日　日本信徒発見の聖母

キリスト教への迫害が少し緩やかになった 1865 年のこの日、十数名の男女が、建てられて間もない大浦天主堂を訪れ、プチジャン神父に「わたしたちは皆、あなたと同じ心です」と、キリスト教の信仰をもっていることを告げた。彼らは、二百年以上にも及ぶキリスト教への厳しい弾圧を、不屈の信仰をもって耐え忍んできた人々の子孫である。この日の名称は 2015 年から「日本の信徒発見の聖母」に変わり、日本固有の祝日として祝うことになった。

【ミカエル金起煥神父のプロフィール】
＊生年月日：1982. 12. 30　（４０歳）　出身地：韓国　　叙階記念日：2010. 6. 24
霊名：大天使聖ミカエル　記念日　9/29　　大邱大司教区で４年司牧　出身教会：福者教会 2016 年来日１年日本語学校　＊松江・出雲 助任→2019. 4 三次・出雲→2020. 4 松江・出雲→2021. 4 岩国の主任司祭を歴任→2023. 4 福山・尾道教会主任司祭として着任。

＊５/２１(日)９：００ミサ後　歓迎会と昼食会を予定しています。

【受洗の恵み】　　**ヨハンナ 中礒杏果**

幼い頃から、神様の存在は信じておりましたが、いままで教会を訪れたことはありませんでした。半年前のある日に、平日の夜のミサに与ったのが初めてでした。そのミサでとある女性の信徒さんにお目にかかり、愛に溢れるお姿に強く惹かれました。それがきっかけで入信を決意し、猪口神父様に入門講座を開いていただき、洗礼に向けて学んできました。
あの日に教会を訪れたのは、神様のお導きだったと思います。待ち望んだ洗礼式当日、実は緊張のあまり足が震えておりました。たくさんの方に見守られる中、洗礼を授けていただく喜びに満ちています。これからの人生、神様とともに歩んでいくのだと実感しました。キリスト者として愛を広め、人を幸せにすることができますように。温かく迎え入れてくださった、神様と教会の皆さんに感謝します。まだまだ分からないことも多いので、教えていただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

【ブラザー阿部　み言葉のおすそ分け】～マタイ福音書 16 章～

『わたしについてきたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』
　今日は、この言葉が心に深く刻まれました。
本当に大切なイエスからのメッセージです。でも、これを実行してイエスに従うのは、本当に大変です。
　今、病床で苦しんでいる人、貧困にあえぎ、今日の食べ物にも困っている人、戦禍の中で家族を失い、嘆き苦しむ人、この人たちの背負う十字架は、すでに耐えられない重荷です。
神は、なぜわたしたちに苦しみを与えられるのでしょうか。
この苦しみの中で、神を呪い、心を閉ざしてしまって絶望の中にいる人が、この世界に何と多いことでしょう。
　自分の十字架を背負ってイエスに従うこと、本当に簡単なことではありません。
神さまから与えられた十字架は、永遠の命に繋がっているとの信仰がなければ、そして、キリストの十字架の苦しみを心に刻み付けなければ、本当に耐えることは出来ないでしょう。
　私は、こう思います。わたしたち一人一人に与えられた十字架の苦しみは、自分よりもっと苦しんでいる人がいることを教えるために、そして、わたしたちが、その苦しみを分かち合うよう与えられて入るのではないでしょうか。
　母が、大変な病いに苦しむ我が子のために、自分の命を失っても「この子だけは」と神に祈る。その姿は、まさに、このことの見本ではないでしょうか。わたしたちすべての人類を救うために、十字架の木にかけられたキリストを思い、わたしたちも、隣人の十字架を見つめて生きることが出来ますように。

初聖体おめでとうございます

【

【南相馬便り㊶】　　援助マリア修道会　南相馬修道院　　北村令子

ご復活おめでとうございます

ここ南相馬は、日々復活の喜びを味わえるところです。
周りで、いつも何か新しいことがあります。

浜通りに帰還した人々や移住を決めた方々の多くが、ここでは新しいことができる。前例にこだわらないで、ゼロからいろんな挑戦ができる。と言われます。

ところで、援助マリア修道会が南相馬に支部修道院を開いて丸 5 年が経ちました。先月の 12 日日曜日に小高の修道院で、ちょうど来福（福島）中の、日本の援助マリア会の責任者シスター森田悦子を迎えて、少し早めでしたが、5 周年の感謝ミサをささげていただきました。聖ヨゼフの祝日 3 月 19 日が日曜日にあたり、祝日が２０日に移動するので、早めにお祝いしました。

地元の方々の助け、ボランティアの方々の協力、支援をいただいて歩むことができました。人々の温かさなどに触れて、少しずつ知り合いの方が増え、この地に足をつけて生きる実感が湧いてくるようになってきました。

5 年間でずいぶん変化したと思います。

4 年前に来た私が感じるだけでも、小高から原町への往来の時、特に夜に明かりが随分と増え、草ぼうぼうの荒れ地が田んぼに代わって、お米が収穫できたこと、そして始めは飼料用だった物が、ちゃんとした食用のお米として出荷できるようになったこと、漁業も試験操業から本格的な漁ができるようになり、漁港が開かれたことなどなど、ただ、新型コロナ感染症の流行によってその歩みにストップがかかったことは本当に残念なことでした。

その中で、私たちの修道院が、東日本大震災の津波・原発事故の三重被災地である、この地域の当事者の方々と苦しみを共にしてくださっているイエス様の救いの御業を、地域の人々のためにお捧げできるのは大きな恵みです。特に、月 1 回ですが、この放射線被災地である小高で、幸田司教様によって、ミサが捧げられてきたことは、キリストの贖いのわざを信じる者にとっては本当に、大きな大きな恵みです。修道院が原発被災地である小高にあり、人々と共に生きるため、人々と共に喜び、不安、苦しみを分かち合って生きるために存在していることを、より多くの方々に知っていただきたいと思います。これからも、聖家族を護られた聖ヨセフが、私たちのこの小さな家族を護ってくださいますようにお祈りください。

今年も 3.11 の前日に「いのちの行進」が行われました。

昨年同様、同慶寺から村上海岸までの約 10Kmを、私も一緒に祈りながら歩きました。今年は雨の予報でしたが、幸い降られなくて曇天で気持ち良い行進でした。歩きながら、この大きな太平洋の波が襲ってきたかと想像すると、やはり恐怖です。村上海岸近くに住んでおられた人々は逃げ道の橋が流されて、津波に飲み込まれてしまったと聞きました。その地区に住んでおられた方、72 戸で、住民の大部分の 62 人が亡くなりました。学校に行っていた子供と会社などで出勤していた方が残され、自宅に帰れないし、その上に原発事故の発生で、遺体の捜索もできないまま強制避難。本当に過酷な出来事でした。そして避難先では放射能がうつるとか、福島から来たということが知られると差別されるので、“福島出身”ということさえ言うことができなかったといいます。

3 月 11 日には教会で追悼と復興の祈願ミサを捧げ、午後は同慶寺で合同法要に参加。

3 月 15 日は、原発の３回目の爆発で、大量の放射線物質が拡散し、多くの地域が強制避難を余儀なくされた日で、この浜通りでは 3.11 と並んで 3.15 も記念します。東日本大震災犠牲者追悼と復興祈願ミサと講演（元請戸漁業組合員の志賀さんの現地報告）がありました。詳細は次号で。

２０２０年の３月に常磐線が全線開通して、小高駅も小高産業技術高等学校の生徒たちが、　大勢利用するようになりました。

全線開通した当初からと思いますが、小高駅の待合室を季節ごとに飾ってくださる県外（関東のボランティアグループ）からのボランティアさんがあります。

クリスマス前にはクリスマスツリー、新春には水仙、早春に菜の花、卒業生への桜咲く、などなど。

今年の３月には、この写真のような心温まるメッセージ付きの飾りがされていました。季節ごとに本当に手の込んだというか、待合室の全面ぐるりを、天井に至るまで、心を込めた飾りつけに感心し、感謝して、楽しませていただいています。皆様お元気でお過ごしください。

【５月・６月の行事予定】

５月		６月	
3（水・祝）	乙女峠祭り	4(日)	三位一体の主日 日曜学校歓迎遠足
6(土)	備後協働体幹事会	11(日)	キリストの聖体
19(金)	地区召命祈りの集い(小教区)	16(金)	イエスのみ心
21(日)	主の昇天 信徒総会＆ ミカエル金神父さま歓迎会 尾道マリア祭	24(土)	洗礼者ヨハネの誕生
28(日)	聖霊降臨の主日	29(木)	聖ペトロ　聖パウロ使徒

【財務だより】

このたび福山信者さんのＴ様より寄付金 50 万円を頂きました。本当に有難うございました。教会では、皆様より頂いた浄財は大事に使用させて頂いています。

【編集後記】

聖母の月になりましたね。

山の色合いが様々で見ているだけで気持ちよくなり深呼吸したくなります。

冬眠から目覚めたように、これからようやく活動が始まっていく期待感があります…　行動できることに感謝しながら何か出来ることを見つけられると良いなと思っているところです。MH